夕刊 磐城新聞
一月二十九日發行
發行所 磐城新聞株式會社 [illegible]
（日曜祭日翌日休刊）

お酒問答

谷口安比呂

二

幹「よし話さう。つまり打開け話だな、はゝゝゝ。以前は宴會の幹事と言へば、損ばかりしてゐる。言はゞ馬鹿役だつたのだなぜと言つて、會員は醉つぱらう、その世話や責任もあり……」

料「御察しします、だが手前共も大張り」

幹「默つて聞け、始めは鯰ヒゲの紳士も居るから幹事も安心して相手になつてるが、醉つて了ふと凄いものだな」

料「なんで御座います」

幹「會費以上に飲もうとする……はツはゝゝ。こッちあ、飲まれては大變だから、まあ〳〵とか、こゝらで解散とか言つて、やッと歸すのだ」

料「其れは何うも」

幹「どうもちや無いよ、それでも豫算超過して、いつも幾らか自腹きつたものだ」

料「へゝ、濟みません」

幹「あやまらんでも宜いがそれで考へたのが酒持ち込みの一手さ——あれから損もせず、幾らか飲み代も殘つたよ、はツは」

料「お利巧ですな、智識階級には勝ひませんよ、へッへゝゝゝ」

幹「いやな笑ひ方だな、嫌味では困るよ」

料「いえ、御客樣さへ御滿足に、飲んで下されば結構で」

幹「だが酒飲みは氣分だ、ウワベ許り客扱ひでも陰でブックサ言はれちや酒がウマクないから、こゝらで妥協するのも惡くないな」

料「と申しますと」

幹「酒の持ち込みなんて止めてもよいから、其のかわり料理屋の方で、ギリ〳〵結着まで酒を勉強しろと言ふのだ」

料「へ宜しう御座います。其れなら當方も望む所——幹事さんの方でも、茶代を餘計おくとか、餘つた酒の三升も呉れて了ふ樣な不經濟も無くなりますからね」

幹「うまく言つてら、お前の方で經濟を取りたいんだろ」

料「てへッ、手前どもは弱い商賣で、お客さんに強く出られゝば一も二もないのですが」

幹「お客だつて人間だよ、今までは習慣で、婚禮にも酒を持ち込んで濟まなかつたが——此れからは大分改良されるだらう」

料「は、有難う御座います」

幹「話は爲て見べきだな、互ひの腹が分ればサッパリする」

料「仰せ通り、たゞいまは非常時ですが、御宴會にせよ、元氣にやつて下さいよ」（完）

潮聲硯靜抄帳

課題吟 敗荷　渡邊武門選

暮いそぐ沼邊にさわく敗荷かな　水明

風さわぐ刈田の中の敗荷かな

破蓮の影冷かに水澄めり　芳月

ばさ〳〵と破れ蓮の風に鳴る

浮草のまた青きあり敗蓮田　松堂

敗荷の中に家鴨の尻振れる

泥深く水さびにけり敗荷　一來

春雪

加藤欽也

○あはたゞしく消えし雪かも竹籔の裾に殘れる雪は汚れをり

○雪解の音しきりなるこの夕池に居つきて啼く蟇のこゑ

○水漬く落葉いたくも澄みし池にゐて啼く蟇の數はいまだ尠く

○消わ殘る雪の覆せし落ち窪に蟇のふたつが重りをれり

○み春づくゆたかになれる川の瀬に蟇の卵の搖れのかそけさ

二月題詠

梅。よろこびの歌。（數に制限なし）

磐女校友會誌 かをりから

外に出て

一年 大門則子

もう秋だ。向りの山が薄ぼんやりと見える。今は氣持よく晴れわたつてゐて、所々に點點と白いかたまりが浮いてゐる。前の小路の兩側には秋草が青々と茂つてゐる。[illegible]に白、[illegible]が。出て見わる。私は空の空氣をよく吸ひながらこの風景についての事を思つてゐた童謠のうまれて來さうな風景はよく〳〵自然を表してゐる。高い空に雀が群をつくつてすうつと飛んで行く。私はこの風景に見とれながらいつしか自分の事を忘れてゐた。ふと氣がつくと家の裏の方で私を呼ぶ聲が[illegible]の[illegible]家へか[illegible]

秋の景色

一年 佐々木繁子

秋は一年中で一番私の好きな氣候だ。家の前の無花果の實は、日毎に熟する。柿の實もだん〳〵色づいて來る。山のすゝきは髮をふり亂して、風にゆられてゐる。常綠樹を除いた他の木[illegible]に、たいてい紅葉して來る

これ等の背景となつてゐるやうに見える青空も、又一層美しい。それを飾るのは白雲や赤とんぼ等である。秋の景色はどんなすみ〳〵までも殘りなく飾られてゐるやうに見える

夜は靜かな虫の音が、あたりをはゞかるやうに、細くきこわる。秋の夜は靜かすぎる位ひつそりしてゐる

旅の黄昏

古川十宵

記憶に殘る黄昏の
靄に卷かれた　細い路
月の明りも　まだ淡い
獨り旅の　さみしさよ

はるかの丘に　星見ゆる
黄昏ちかい　長い路
町の灯りを　數へつゝ
獨の旅の　はかなさよ

君を待つ間の　いくときを
黄昏くれて　よみがへる
昔の月の　水鏡
旅のつかれの　うれしさよ

その日〳〵

1月30日　△チャールス一世斷頭せらる（一、六四九）△德川家齊薨ず（天保一三）△獨逸國粹社會黨首ヒットラー氏宰相となる△全國町村長會議を東京に開會（昭和八）△ドイツ聯邦制を廢止、統一國家完成す△フランスダラディエ內閣成立△米大統領ドル改訂法案に署名（同九）

○

往來の人の步み——。街のざわめき——。舊冬もいよ〳〵押しつまつてきた。

講談　戶隱奇譚　山の怪秘（96）

丸山寬雄作　眞木浪畫

小諸から淺間（三）

淺間山の頂上までは山麓小諸の宿から三里半と云ふことになつてゐる。頂上に淺間神社が祀つてあるので、年々夥しい講中が登る信仰の山であつた

明方、頂上を極めて夕刻下山するもよければ、前夜から登つて御來迎を拜して歸るのも面白い

鳩羽色の山肌の所々に白い朝雪がふはり〳〵と叩きつけたやうに停滯してゐる朝のうちは風が無いからである

その雲と山肌とで、だんだら染めになつた山道を白衣の登山者が白蟻のやうに山頂から裾野まで連なつてゐる。その中をたゞ一つ足早やに縫つて登るかごがある

刈馬平七郎は、このかごに乘せられてゐるのだ。北國街道を江戶に上る筈の平七郎、遂に岡庭典膳のわなにかゝつたのである

「人の居ない場所へ行つたら、かごを下して休め」

典膳はかご脇について登りながら云つた。そこは未だ、山道の半分にも達しない地點であつた。けれども頭上の日輪は容赦なく炎熱を放散するので登山者は一樣に惱まされる

大きな黑い岩が蹯屈した場所がある。大方大噴火の時に噴出した燒石であらう

典膳のかごは、その蔭で休んだ。四人のかご屋は期せずして岩の北側の日蔭を選んで腰を卸した

「親方、この道ちや駄賃に多分に頂かねことにや間尺にあひませんや」

顏中鬚だらけの年とつたかご屋が腰の煙草入れを拔きながら典膳の顏を見た

「細工の仕上げが、うまく行つた曉には貴樣達に不平は云はせねえ。安心しろ」

典膳は云ふ

「こゝらで一つ値上げを迫つて見るかな。おい相棒どうだい」

年とつた駕籠屋は厭がらせの冗談を云つた

「そんな眞似をして見ろ。この場で笠の臺をぶつ飛すぞ」

典膳はこの山へ差しかゝるとき念のために差して來た腰のものへ手をかけた

「冗談ですよ。親方」

かご屋共は、げらげら笑ひながら煙草の輪を吹き上げてゐる

野郎共、俺をなめてかゝつてやがるナ

典膳は此分では途中から引返すことは出來ないと思つた。典膳は腹では中腹まではかご脇について行つて、あとは言を含めて賴んだ後直ぐに下山する豫定だつたのである。で、此分ではかご人足に安心が出來ないと思つた

岡庭典膳はかごを蔽つたござを、いきなりはねて見た。下は網がかゝつてゐる

「どうやら眠り込んでしまつた。矢張り秘藥の力は恐ろしい」

典膳は網の目に手をかけて、中をのぞき込んだ背後へもたれかゝつたまゝで刈馬平七郎、死人の如くに動かない

「平七郎、口惜しいか目をあけ」

典膳は試みに怒鳴つて見たが全くの昏睡狀態に陷つてゐて、半眼を開かない

「親方、若し正氣に返つてあばれ出したらどうしますね」

「大丈夫。腰のものは、此方で預かつてゐるちやねえか」

典膳は、刈馬平七郎を籠之丞から受取つた魔藥で眠らせ、その上に丸腰にし駕籠へのせて、この淺間山頂へ運び上げてゆくのであつた

淺間山頂は、有名な噴火口だ。岡庭典膳はその形態まで抹殺するには、かうした場所が最適當と認めたのである。して見れば、この駕籠に囚はれの人となつた刈馬平七郎は間もなくこの呪ひの山の噴煙と化するの

各位

謹啓 弊店儀從來古鍛冶町に營業致し居候處此度才槌小路元高橋時計店跡に移轉仕り候間倍舊の御愛顧を賜り度御願申上候　敬具

才槌小路元高橋時計店跡
梶原時計店

小兒科……
平町南町五〇番地
志賀醫院
電話一六二番
（入院應需）

新古書籍大賣出し

毎度多大なる御贔負有難ふ御座いました。本年も東京津田某書店の整理品を引受け恒例舊正月二日より十日迄特別大賣出しを致しますれば何卒多少に不拘御求めの程を御願致します。

平町五丁目大工町通り
片寄書店

舊正月二日
賣出し
ぜひ金光堂へ……
品物は好く安く……景品は澤山

精工舍製腕時計（當日限り）七圓五十錢
掛時計（當日限り）三圓五十錢
精工舍目覺（當日限り）一圓八十錢
金光堂特製携帶蓄音器（ポータブル）十五圓
レコード宣傳盤 五十錢
子供レコード 二十五錢

弊店にては好い品を安く賣るとの信念のもとに迅速且つ親切をモットーとして一九三五年は大いに躍進する覺悟ですから一層の御用命を切に御願いたします。

時計 貴金屬 眼鏡類
ビクター コロムビア ポリドール 特約店
鐵道省御用
金光堂時計店 蓄音器部
平町五丁目 電話一九五番

舊正二日 景品附特價大賣出し
一本で十年完全無缺を誇る
錦網傘
各位樣も是非一度御使用して眞價をお試し下さい
尚名入註文に應ず
郡代理店 磐城平五丁目
田口はき物店 電話三七七番
（小僧さん入用）

國は日本。凍魚はヒノマル
ヒノ◎マル
凍魚
日本水產一手特約
發賣元 平製氷株式會社 電話二八二・三一六番
平町代理店 ト印魚問屋 電話五二八番
鯛。海老。白魚。帆立貝
刺身魚、煮魚、各種品々一個一尾ニテモ迅速配達……

十日 体温計の檢査日です
新設 檢機
◎正確な体温計を御使用下さい
◎毎月十日の檢査日御利用下さい
お宅の體温計は？
度量衡計量器 指定販賣人
西村屋藥局 平 二・電 三 番

大塚の一大飛躍
—初春……特賣
お客樣本位の瞭館の店
新型と製法の自慢店
驚異的なる其の値段
御用命は安心得る大塚へ
◎自製學生靴 短靴 五、〇〇 均一
女靴 六、〇〇
編上靴 七、〇〇より各種
◎紳士靴……
新製品 御案內
舶來ボックスカーフ 短靴 九、〇〇
同 編上靴 一〇、〇〇
惣革ウラ、ボタン、美錠、エナメル飾 同値
右は御注文歡迎亦出來合品豐富而
平・田町 大塚製靴部 電話七十七番

吸入用醫療器
度量衡
モノサシ マス ハカリ
体温器 寒暖計
◎秤ノ取次・緒垂・糸・修繕・選致シマス
關內藥局 電話四〇番

產科 婦人科 花柳病科
午前 宅診 午後 往診 入院應需
井坂醫院
平町田町（元合津醫院跡）
電話五五九番

新進の店 堅實な店
開業
公社債、勸業債券高價ニテ買受ケマス
水戶市ヨリ來マシタ株式店ヲ御利用願ヒマス
公債、社債株式賣物賣買
友部株式店
平町三丁目 電話一七七番
株は一株から 債券は一枚より

◎日本石油株式會社特約店
ライジングサン石油株式會社瓦油特約店
關彰商店平支店
本店 水戶線下館驛前 電話六一番
營業種目
石油、揮發油、輕油、重油、モビール油、マシン油、機械油類、胡摩、種水、植物油、コールタール、カーバイト、石炭、コークス、ストーブ
支店所在地
茨城縣土浦町田宿（電話六五三・八二四）
常磐線關本驛前（電話平潟五四）
常磐線四倉驛前（電話四八）
久慈濱支店
海上給油及油槽所 大津、平潟、小名濱、江名濱

剩す處愈々あと五日 総清算の舊歳末迫る

慌しい各方面の明暗を覗く

閼伽井嶽がブル、ブルッと身慄ひすると、狂暴な風が街の廣告旗幟をヒステリカルに狂奔させる。そして『師走』と叫んで急いで立ち去る。舊歳末も殘す處あと五日。カーブを斜に走る自轉車は一年間の貸金の催促か、毛布をかぶつて鹽引をブラさげて行く百姓婆さん達、兩手に荷物をかゝへて風にあほられた裾を直しもしないで急ぐ娘さん達SO・ON・軍需インフレ、濱大漁、匡救工事等々で凶作をけとばした微笑ましい當地方の舊歳末を裏から覗く

自動車滿員

車外に立ち通しと 助手の嬉しい愚痴

總越が最も激増してる

朝は七時頃から夜の六時頃まで何遍走つたつて滿員ですよ、ステップへ二三人は立つて貰はなくちや駄目なんだ、俺なんか車の中へ入つた事など何時からか無い と可哀そうに助手君は水つばなをすゝり乍らこぼしてる

人間丈けならまだしも、荷物をタンマリ持つてるんでね

車の中を覗いたら、發車迄は三十分もあると言ふに三四人の客が酪々膝の上に荷物をかゝい込んでた

大漁でトラツクも増收

貨物自動車の

運轉手君は語る

斷然多い。去年の舊歳末から見たら五割方の増加だらう。普通一日一回の往復も五、六日前からは滿載しても二回は往復させられる、新の暮より遙かに忙い金のあがりも相當いいよ、まあ濱大漁のせいだらうね

乘降約三割増加

町の表玄關平驛の昨今

町の玄關口、平驛の乘降は殆ど増加してないが普通六、七百（定期通學生を除く）の乘客に比し一昨日あたりから八百名内外を示してる、然し新歳末程ではない

の減ではあるが去年より百廻方の増加、別に變つた品はなく一般に増してる點から觀れば割合に健全な好景氣と言へやう、只一つ野菜の發送が非常に目立つて居るが之は各地の幕市へ向くもので金策の投げ賣りではない様だ

ど驛當局では語つて居るが餘りにもスピーデーな師走の感覺には如何にザイゴ者とは言へ、待合時間がもどかしいのではあるまいか

貨物方面も 好景氣反映

殊に野菜の發送増

貨物の發送は二、三百廻新より五十、去年より百廻の増加、到着は中旬以後五百二、三十廻、新より五十廻とある

貯金拂ひ戻し激増

町民の懐ろバロメーター平局の貯金拂戻

二十日以後五、六千圓を示し通常より二千圓位多いが新歳末と大差ない、取引が漸次新暦化してる點から觀れば昨年よりは遙かに景氣がよい様に思へる

取引先への電信 激増は

目まぐるしい平局

局内で最も急激に増加したのは電信らしい

新歳末と殆ど同數で普通より二、三割、昨年より一割方増加してる、發着何れも増加しては居るが

普通は發着中繼併せて千五、六百であるが四、五日前から二千を越えて居る。この増加は一般的のものではあるが、近郷近在からの着信が多いのは地方小取引の繁忙を物語つて居る、中機の海岸方面が多いのは大漁景氣を物語つて居る

贈答品増加

最近の小包發著

御歳暮、御年始の贈答品—郵便小包は

世界的になつた 小名濱産魚粉末

既に三車を輸出

歴報—日本食料工業小名濱分工場内に建設された魚粉末製造工場は昨年中は原料の鰯の不漁、高値から操業を見合はせて居たゝめ兎角の噂を招いてゐたが今春早々より鰯大漁現在迄に十日間以上に亘り晝夜兼行の大努力で一日地元小名濱のみならず平潟方面からも買ひ求め三十噸（仕上り五、六噸）の鰯を消化して居り使役勞働者三十名は十二時間交替といふ劇勞ぶりで既に横濱への出荷三車（三十九噸）に上つて居る

極度に窮迫してるが 深刻な身賣話も聞かぬ

四家職業紹介所長田村山間部視察談

身賣防止と職業紹介の趣旨徹底のため去る二十二日から二十六日迄田村郡山間部行脚を試みた四家平職業紹介所長はこれが成績に就いて左の如く語つた 同地方は目下主要産業たる煙草の納付季に當つて居り山根、常葉村などは昨年より約三割乃至四、五割の減收と云ふ慘めさなので一家總動員でこれに携はつてゐる關係から主として區長、實行組合長、小學教員などを集め話をした、瀬川村などは前後四回に亘つて行つた程で連絡の薄い關係もあるが概してこの職業紹介機關と云ふものに對して認識不足のやうに思はれた、教員等の俸給は何れも約三ヶ月位の滯りがあるので大半は米味噌等は借り喰ひして居る程窮迫してゐるが幸ひ表面化した娘身賣話しのなかつたのは喜ばしい何れも親戚等を頼つて女は女工に、男は鑛業地邊に出稼いで居るのでとくと紹介所の利用に關して話し、一部分の就職受付けだけはして歸つた、煙草納付の多忙を過ごし舊正月頃今一度來てもらひ度いと頼りに云つて居たから此の方

双葉方面 町村行脚

双葉郡山間方部は

も考へて見なければなるまい　云々

舊歳末貧困者救濟

平助成會では舊歳末貧困者救濟のため昨二十八日午後二時から町會議事堂に協議した結果町內九十四戸三百五十八名に對し人數により五十錢乃至二圓に白米一戸一升を惠與する事になつたが鎌田町の八家族を筆頭に長橋、立町、堤の內が比較的多いと

菜種油生産

泉公民校の試み 生徒の手で

泉村公民學校では同村副業栽培の菜種をそのまゝに賣却せずして工業化し昭和八年度より種油製造を同校生徒の手により製造されつゝあつたが、菜種栽培の増加と共に從來製造器具では不足を告げるために工費八百圓を以て校舎裏に三十餘坪の工場を建設し油締機も三臺に増加し一日作業一石の菜種一斗五升の種油二十[illegible]縮の油粕が出來これを村內に配布販賣されてゐるが、地方では同村が同製造のトップを切つたものである

改正健保法 普及講演會

平署では改正健康保險法の趣旨普及並にこれが手續指導のため來る三十一日午後二時から本縣岡本保險課長を招き會議室に講演會を催す

見捨てられたと速斷

夫の家出を悲觀して 運轉手の妻服毒自殺未遂

植田町本町自動車運轉手小沼一郎妻ため（三七）は夫が數日前無斷家出したので見捨てられたものと早合點し昨二十八日午後十時頃自宅奥座敷でバット十數本を煎じて嚥下苦悶中を家人に發見された、一命は取り止めるらしい

頓死と判明

箕輪の松採り爺

昨報—箕輪村大字大利字小川崎七無職小松平治（八四）が同村山林內での變死に就いては平署で檢視の結果、同人は一昨二十七日早朝松根を取りに行くと出かけ同村發電所から約四百米地內の山林內で老齡のため頓死したものと判明

一家の維持を志す 健氣な少女救はる

平職紹近來の實際的活動

一家一門何れも病氣或は失明から食苦のドン底に喘いでゐる叔父宅の發育の恩に酬ゆるため僅か十五才の小娘が健氣にも此の窮狀を救はんとして起つた双葉郡久の濱町田所キミさん（一五）假名—の救濟に關しては平職業紹介所に於て種々善後策を講じた結果同人を東京の堅實な處に女中奉公に斡旋する一方昨二十八日本人を呼び出し百圓を貸す事に決定、取り敢えず一家の飢餓を救ふため內金を渡したので此の温情に感泣して引き下つたと、尙同所ではこれが返還期間も出來得る限り延ばすべく縣社會課に交渉する筈である

防犯座談會

學校專門の賊警戒

平署では最近頻りに學校專門の賊が横行するので今二十九日午前十時から町內公私立學校長を招き署長室に防犯座談會を開いた

・・・・・下水施工陳情 平町古鍛冶、材木町、紺屋町の三區は從來降雨時には下水道がない處から水浸りになるので是非下水工事を來年度事業として實施されるやう、今二十九日關係區長及代表者連署の下に町役場へ陳情書を提出した

・・・・・小野田鑛義金募集 磐崎村小野田炭鑛の東北地方凶作義金は過般來募集中であつたが十五圓五十錢に上つたので近く縣社會課へ送付する

・・・・・度衡違反處罰 平町南町六〇米穀商小池豬之助（三六）は米販賣に際しメートル秤に貫目の錘を使用した廉により今二十九日平署の取調べを受けた

畠田警察部長巡視

本縣畠田新警察部長は縣下初巡視のため明後三十一日午前十時四倉を經て來平、同署の事務視察午後植田署を視察住吉屋本店に一泊の上一日出發する

白水阿彌陀堂の第二回修理（二）

鄕土の史的時事解說

本堂宇の特別保護建造物並に內壇安置五佛像國寶各指定に就て　（云）

勿來生

賴義が該役西還の途次、再び筑波郡の多氣氏の館に止宿し、其の女（一本には妹とも）と私通して、後年の徳姫を懷姙せしめたと傳述するものを左に示すと

康平六年正月十六日、源賴義奥州を打ち立ち、再び常陸の多氣宗基の館に寄り三日逗留の內、當時宗基の女は早くも十八に成でをり、賴義と旅寢枕を並べ、同月晦日、相模國に著き、二月二十日、京師に著く。（本朝武家評林、元祿中、遠藤元閑の著）

かうした事情であつたか。評林の記するところは固より正史料とは認められぬのは勿論であるが、其の頃に凡そ出來た女子であると姑らく定めておきたい

兎に角、徳姫は賴義の子たる所以は、後三年記から出たのは今更くどくしく云ふまでもないが、詰り彼れの歸京の際に儲けたのには違ひなからう。されば其の生れ年は康平六年（一、七二三）に相當する。後三年記の文は次節に出すが賴義の子とする文を煩しいが少し抄錄してみよう

奥州岩城判官代府主乘帶海道小太郎成衡の後室德尼と申は、源の賴義の姫にて、母は多氣權守宗基が女なり、前九年の合戰に彼の國にてまうけさせ給ふ、後三年の戰ひの時義家の養女として亘權守清衡（此の事に就ては次節で一考する）にあつけさせ給ふ（鎌倉實記）

岩城等祖平繁盛、昌泰三年生の五世多氣權守致幹の三女、實は妹なり、永承六年九月下旬の時、一日一夜逗留の時、致幹が妹六七才、其後康平六年賴義師洛のとき、正月また致幹が館に二三日滯在賴義は妹に通じて一女を生む、後ち養て子とす

（常陸三家譜摘錄）

怨めし卒業證書

原因は就職難と判る 青年雜夫が服毒する迄

昨報—湯本町備中屋旅館に於て謎の服毒をした湯本町大字湯本字日渡入山炭鑛雜夫相馬郡鹿島村大字南右田瀬戸生れ鎌田圓龍（三二）の自殺原因に就いては同人の意識恢復と共に平署で取調べた結果、同人は一昨年三月縣立相馬農蠶學校を卒業したもののこれと云つた仕事がないので昨年十一月同鑛雜夫（日給八十五錢）として働いてゐたが、最近仕事に倦き退職しようとしても他に之ぞと云ふ口も無く思ふ様にならぬ結果狂言自殺を圖つたものらしく服毒物はバット五本及アルコール一オンスと判明した

十二の娘を侵した 鬼畜に等しい男

平町の一隅に奇怪な噂

菓子でも貰はねば床の中で愚鬩つて居る僅か十二歳の少女を姦した。と云ふ鬼畜の話——平町材木町某の娘はな（一二）假名——は先ごろ江名町某方の子守女に雇はれ中氏程病氣の故で歸され最近稍々常態に復したが、當人は主家に戻ることを極度に厭がるので宥め賺かして事情を訊くと主人の爲再三あらぬ暴行を受けて病毒を感染し、歸る時渡された毒だみを煎じては密かに服んで居た程であるとの奇怪な事情が判明したとの噂に其筋でも寄々内偵中である

三十日（小名濱測候所調査）

日出 六、四〇　月出前 二、二〇
日沒 五、〇一　月沒前 一一、五九
滿潮前 一一、四〇　干潮前 後 七、一五

舊十二月廿六日　水曜　丙午　先勝　執　參宿　新一月三十日

諸判定旅館　東京市本郷區湯島四丁目五番地　高島易斷總本部　神 誠 館

▲一白の人　日頃の努力現はれ來る氣緩みを生ずる勿れ▲二黑の人　新規に事を企つるには尤も宜しき日希望成る▲三碧の人　不調和の日なれども氣を晴らし活躍すべし▲四綠の人　困難多く容易に安全の域に入り難き日▲五黄の人　身を低うして働くときは大吉となる▲六白の人　移氣を戒しめ尻を落付け精勵すれば吉なり▲七赤の人　信用を重んじ秩序を亂さぬ様にすれば吉日▲八白の人　出費もあれど働き次第にて所得も亦大なり▲九紫の人　心焦立ち衝突を生じ易き日新き事は特に凶

山葉 ピアノ オルガン

大衆化の爲め——分割拂の便法あり

ピアノ 五〇〇圓以上
オルガン 二〇圓以上

地方特約店 平町字紺屋町角（公園前）
角忠 佐々木商店 電話二二三番

外科

内臟外科
レントゲン線
◁病室完備▷

醫學博士 諸橋鐵彌
新川町二七（電四六四）

内臟外科
外科一般
花柳病科

入院隨意 自炊の便あり
平町田町赤心堂病院跡（電話四七五番）
安齊外科醫院

廣告

第七拾八回決算公告

昭和九年拾二月卅壹日現在

貸借對照表

資產（借方）	金額
現金預ヶ金勘定	一〇七、七四九・七一〇
現金	三七、七四九・七一〇
預ヶ金	七〇、〇〇〇・〇〇〇
有價證券勘定	七一、八一八・〇〇〇
國債	三六、四九八・〇〇〇
株式	三五、三二〇・〇〇〇
割引手形勘定	四九、四六五・一四〇
商業手形	二三、八五一・三四〇
荷付爲替手形	二六、六一三・八〇〇
貸付金勘定	六三五、八八八・四八〇
手形貸付	三六六、二八四・六九〇
證書貸付	一八二、九一一・八七〇
當座貸越	八六、六九一・九二〇
他店貸	九、七〇八・四五〇
動產不動產勘定	一六、九四七・三四〇
營業用土地建物什器	一六、九四七・三四〇
假拂金	一、二三七・一三〇
株主勘定	三五二、五〇〇・〇〇〇
拂込未濟資本金	三五二、五〇〇・〇〇〇
合計	一、二四五、三二四・二五〇

負債（貸方）	金額
預金勘定	六九九、九〇一・二〇四
當座預金	一〇八、五九一・三二四
特別當座預金	三三〇、三二八・七五〇
通知預金	五八、三一八・三〇〇
定期預金	二〇三、六六二・八五〇
他店借	二七、七二七・八四〇
雜勘定	八、八三七・〇三〇
未拂配當金	七一五・八七〇
未拂利息其他	五、一三一・七六〇
未經過割引料	四三四・三六〇
其他	
預金利子諸稅	四三八・五八〇
行員身元保證金	二、一一六・四六〇
株主勘定	五四八、八四八・一四〇
資本金	五〇〇、〇〇〇・〇〇〇
法定準備金	三九、九〇〇・〇〇〇
退職給與基金	三、六〇〇・〇〇〇
當期利益金	五、三二八・一四〇
（內前期繰越金）	（三、七五二・一一〇）
合計	一、二四五、三二四・二五〇

一金五千參百貳拾八圓拾四錢　當期利益金

一金五百圓也　諸積立金

一金千七百七拾圓（年貳分四厘ノ割）　株主配當金

一金參千五拾八圓拾四錢　後期繰越金

昭和拾年壹月貮拾八日

石城郡植田町

株式會社 磐東銀行

取締役頭取 江尻博孝
專務取締役 金成欽次
取締役 金成通
取締役 岡田保治郎
取締役 兒玉萬生
取締役 馬上誠一
取締役支配人 金成金三
監査役 古川傳
監査役 藤田彦之助
監査役 久保木榮八

追テ取締役江尻博孝、金成通、金成金三ノ三氏再選重任、取締役互選ノ結果頭取ニ江尻博孝就任致シ候

天下一品マヅイ
素人料理
おでん 榮ちゃん
花ノ里 新田町